

(その2) 実施状況と効果

○岐阜女大家政 中野迪代
滋賀大教育 山崎古都子

【目的】 本報は前報に続いて「一斉大掃除」が住宅の保全に果たした役割を明らかにすることを目的として、現在も行われている「一斉大掃除」の実施状況、実施内容、住宅保全に果たした効果および、「一斉大掃除」の参加者と非参加者における住宅の価値観に関する居住者の意識の違いを把握した。

【方法】 聞き取り調査(1994.4.1)とアンケート調査(1994.10)を実施した。調査対象は前報の自治体へのアンケート調査によって、現在も「一斉大掃除」を実施していることが明らかになった滋賀県犬上郡多賀町萱原地区である。アンケート調査は悉皆調査で、回収数 126票(回収率90%)、回答者の内訳は男性35人、女性91人である。

【結果】 聞き取り調査によれば萱原では「一斉大掃除」は「清潔の日」と呼ばれており(以下「清潔の日」とする)、その最も代表的な内容は畳を上げることである。「清潔の日」の日程は地区内の区長か衛生係によって口頭で知らされている。

以下アンケート調査結果について述べる。92%の世帯が「清潔の日」が1年に2回あることを「よく知って」いた。実施状況は「1994年に実施した」63.6%、「過去に実施した」28.0%、「したことがない」8.4%であった。「清潔の日」の大掃除が住宅の寿命に与える効果を73.5%が認めており、その理由は畳を上げることによって床下を清掃するだけでなく、床下の点検を行うことができることを挙げている。同地区は山間の伏流水が豊富な地域であるために、土台や基礎の腐食を防止する効果が高いことが指摘された。「清潔の日」に保全効果があると答えた回答者の住居観には、「住宅を長持ちさせる」ことが環境への負荷を軽減することに結びつくという考え方が強い傾向がみられた。